令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団
施設名	調布市せんがわ劇場
内定額	7,200　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型（公演・人材・普及）が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　業　名	実施日程	実施会場
公-01	親と子のクリスマスシアター『木島平のカロ』	令和7年12月13日～12月21日	調布市せんがわ劇場ホール
公-02	せんがわディレクターズセレクション『ピギーバック』	令和8年3月19日～3月22日	調布市せんがわ劇場ホール
人-01	せんがわ劇場演劇コンクール	2025年5月24日～2026年3月31日	調布市せんがわ劇場ホール
人-02	DEL（デル）	令和7年4月9日～令和8年3月18日	調布市せんがわ劇場ホールほか
普-01	インクルーシブシアター	令和7年7月26日～8月10日	調布市せんがわ劇場ホール
普-02	せんがわ劇場演劇アウトリーチ事業（コミュニケーション・表現）	令和7年5月～令和8年3月	市内小中学校、児童館等
普-03	せんがわ劇場演劇アウトリーチ事業（鑑賞）	令和7年12月～令和8年2月	市内児童館等
普-04	夏休み子ども向けミニシアター　おらほせんがわ夏まつり in せんがわ劇場	令和7年8月2日（土）・3日	調布市せんがわ劇場ホール
普-05	演劇を通じた学習事業	令和7年6月10日・17日・7月1日、令和8年2月4日	調布市せんがわ劇場ホール

（2）〔基礎データ〕

※　交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※　実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	23	18	16
	公演事業	12	10	8
	（内、本助成対象事業本数）	1	0	2
	人材養成事業	3	2	2
	（内、本助成対象事業本数）	3	2	2
	普及啓発事業	7	5	5
	（内、本助成対象事業本数）	7	5	5
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：　記入してください	1	1	1

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	570	615	647
	ホール名：ホール　　座席数：121	284	290	316
	ホール名：リハーサル室　　座席数：	286	325	331
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	8,971	7,677	5,112
	公演事業	2,576	3,077	2,732
	人材養成事業	1,220	400	380
	普及啓発事業	4,535	3,800	1,600
	共生社会事業			
	その他　内容：	640	400	400
	貸館事業入場者・参加者数	8,700	8,800	8,928
	その他　内容：記入してください			
	計	17,671	16,477	14,040
開館日数		348	326	347
施設の利用可能日数（＝365－（保守点検日数+休館日数））		348	326	347
施設の利用日数		344	324	332
施設の利用率(%)（＝利用日数/利用可能日数）		98.9%	99.4%	95.7%

備考	
	施設の利用可能日数は、ホールまたはリハーサル室のどちらかが1区分以上使われていれば「利用があった日」としてカウントしています。 劇場の利用率は、公式には年間利用可能区分＝（1日につき3区分×利用可能日数）／開館日数で算出しており、日数での利用率を算出していません。 よって、上記の利用率は、劇場が事業報告用に算出している数値とは異なります。

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	12	42	2,576	6	6	0				
	共催・提携公演（※2）	2	18	1,415	0	2	0				
	貸館公演	71	150	8,700	20	50	1				
	計	85	210	12,691							
令和6年度	主催公演（※1）	10	38	3,077	6	3	1				
	共催・提携公演（※2）	2	13	1,103	0	2	0				
	貸館公演	70	150	8,800	20	45	5				
	計	82	201	12,980							
令和7年度	主催公演（※1）	8	33	2,732	5	2					1
	共催・提携公演（※2）	3	19	2,006	1	2					
	貸館公演	75	143	8,928	14	51	9				1
	計	86	195	13,666							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

・公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
・入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
・有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
公-01	親と子のクリスマスシアター『木島平のカロ』	目標値	902	90.2%	親子ペアチケット販売率	52%	20.5%
		実績値	658	68.2%			
公-02	せんがわディレクターズセレクション『ピギーバック』（仮）	目標値	445	89.0%	東京演劇記者会に属する新聞社発行紙等への劇評掲載数	4件	1件 （2026年5月発売　テアトロ6月号掲載予定）
		実績値	489	94.0%			
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団
施設名	調布市せんがわ劇場
内定額	7,200　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価
公-01	親と子のクリスマスシアター『木島平のカロ』	「木島平のカロ」は、芸術監督制のもとで、せんがわ劇場の創造性、地域性、人材養成機能を総合的に発揮した事業であったと評価できる。せんがわ劇場の人材養成の仕組みである「DEL（デル。以下『DEL』と表記）」メンバーが脚本を担い、小笠原響芸術監督自らが演出する体制をとることで、劇場が育成してきた人材の力を生かしながら、芸術監督による創造面の統括のもとで作品の質を高めることができた。村制 70 周年及び調布市との姉妹都市盟約 40 周年を迎えた木島平村を題材とし、親と子のクリスマスシアターとして、大人から子どもまで幅広い世代が鑑賞できる作品として仕上げたことは、芸術性と親しみやすさを両立した成果である。 また、本事業は上演にとどまらず、木島平村の物産展やロビーでのパネル展示をあわせて実施することで、舞台芸術と地域資源の発信を結び付けた点にも意義がある。作品鑑賞とあわせて木島平村の魅力を多面的に紹介したことにより、調布市と木島平村とのつながりを市民に伝える機会となり、公共劇場としての地域的役割を果たす事業となった。舞台表現を通じて地域間交流の意義を可視化したことは、文化事業としての波及効果を高めたものといえる。 さらに、人材養成面ではあるが、当該事業においても重要な成果が認められるものと考える。脚本を DEL メンバーが担い、仙川地域にゆかりのある人材を起用しながら創作を進めたことは、劇場で育成してきた人材に実践の機会を与え、その成果を公演という形で具体化した好例である。芸術監督公演という高い水準の創作現場において、育成された人材が実際に担い手として機能したことは、せんがわ劇場の人材養成の有効性を示すものである。 加えて、親子で楽しめる内容としたことにより、次代を担う子どもたちを含む多様な来場者に舞台芸術に触れる機会を提供した点も評価できる。鑑賞機会の提供という観点においても意義があり、劇場が幅広い世代に開かれた文化拠点として機能したことを示している。 以上のことから、「木島平のカロ」は、芸術監督制の強みを生かした創造性の高い公演であり、せんがわ劇場ならではの DEL の人材養成機能、地域資源の活用、幅広い世代への鑑賞機会の提供という複数の要素を一体的に実現した事業であり、せんがわ劇場の事業方針と公共劇場としての役割を具体的に体現した公演であったと評価できる。

公-02	せんがわディレクターズセレクション『ピギーバック』	当該公演は、せんがわ劇場が長年育成してきたDELを中核に据え、劇場内で蓄積してきた人材養成の成果と、第一線で活躍する外部芸術家の専門性とを結び付けることで、創造性、企画性、人材養成機能を高い水準で実現した事業であったと評価できる。DEL メンバーである細川洋平による新作書き下ろし脚本に、話題性の高い演出家生田みゆき氏を迎え、さらに俳優大森博史氏、舞台美術家杉山至氏、オーディションで選抜した若手俳優陣が加わることで、多様な経験と表現力を持つ人材が交差する創作体制を構築した点に大きな意義がある。 また、芸術監督及び DEL から選出したディレクターチームが創造面を牽引することで、劇場が単に作品を上演する場にとどまらず、若手創作者、経験豊かな実演家・スタッフ、劇場が育成した人材が協働し、新たな舞台表現を生み出す場として機能したことも重要である。劇場独自の人的資源を基盤としながら、外部の優れた芸術家を的確に組み合わせた企画構成は、せんがわ劇場ならではの企画性を示すものであり、公共劇場としての創造的役割を具体化したものといえる。 さらに、せんがわ劇場における人材養成の観点では、DELメンバーが脚本等の創造的中核を担うとともに、出演、制作、運営等の各側面に関与することで、劇場が育成した人材に実践の場を提供し、その力を公演成果として可視化することができた。加えて、オーディションで選抜した若手俳優陣の参加により、新たな人材との接点を生み出し、創作現場そのものが次世代を担う人材を養成する場として機能した点も評価できる。 加えて、本公演は地域内外の観客及び演劇愛好者の注目を集め、劇場のある仙川を文化芸術の目的地として印象づける成果にもつながった。話題性と芸術性を兼ね備えた公演を発信したことにより、劇場の認知度向上と魅力発信に寄与している。 以上のことから、当該公演は、劇場が育成してきた人材を起点に、外部の優れた芸術家との協働を通じて創造性の高い舞台芸術を実現するとともに、人材養成、劇場の発信力向上、地域内外への波及効果をあわせて達成した事業であり、せんがわ劇場の特色と強みを端的に示す公演であったと評価できる。

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（2）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業	芸術性と創造性に優れた作品をより多くの市民に届ける 指標：定員充足率 （測定方法） （チケット購入者数＋関係者招待数）÷（設定座席数）　※関係者を含む 質の高い演劇作品の創造・発信により、鑑賞者に良質な体験を提供する 指標②　ネット・プロモータ・スコア（NPS）	 目標値 【公-01】89.8% 【公-02】89.0% 目標値 【公-01】40pt 【公-02】40pt	 実績値 【公-01】69% 【公-02】94% 実績値 【公-01】69pt 【公-02】24pt
人材養成事業	育成対象者の事業への満足度 【人-01】参加推奨度（NPS®） 設問：コンクールへの参加を他の団体に勧めたいと思いますか 情報源：人-01 参加者（ファイナリスト） 収集方法：事業終了後の参加団体アンケート 【人-02】育成プログラムの参加満足度 設問：本日のプログラムはいかがでしたか 情報源：人-02 育成プログラム参加者 収集方法：育成プログラム終了後の参加者アンケート"	 【人-01】参加推奨度（NPS®） 目標値：40pt 以上 基準：NPS®（ネットプロモータスコア）一般的に優秀とされる水準以上 【人-02】育成プログラムの参加満足度 目標値：「大変満足」または「満足」の回答割合が 80%以上 基準：令和 5 年度育成プログラム満足度　78%	 実績値：77pt（NPS） 実績値：100%

普及啓発事業	参加者の文化芸術活動への参加意欲 設問：文化芸術事業について、また観たい（参加したい）と思いますか ※アウトリーチ事業（普-02、普-03）の場合は「劇場に行ってみたいと思いますか」とする 情報源：各事業の鑑賞者・参加者 収集方法：各事業終了後の鑑賞者・参加者アンケート	目標値:「大いに思う」または「思う」の回答割合が 85%以上 基準：令和 6 年度普及啓発事業実績値　84.2%	実績値：93%
共生社会事業			

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	「親と子のクリスマスシアター『木島平のカロ』」（以下「木島平のカロ」と表記）は、良質で幅広い世代が楽しめる演劇作品を地域劇場から創造・発信することで当劇場の注目度を集め、芸術作品を「地元で観る」ことの価値を高め、「親子で文化芸術に親しむ習慣づくり」を高次で実現することを目的に実施した。劇場のレジデントアーティストである DEL のメンバーが脚本を書き下ろし、芸術監督自らが演出することで、人材養成の成果を芸術性の高いオリジナル作品の創造につなげた。作品の舞台を調布市の姉妹都市である木島平村に設定し、村制 70 周年及び姉妹都市盟約 40 周年の記念年に、国の選択無形民俗文化財である「柱松子」を題材とし、現地取材や村民へのインタビューを通して創作を行ったことで、地域文化資源を作品化する企画性の高い取組とした。さらに、木島平村の紹介展示、物産販売、アフタートーク、稽古場見学ツアーなどの関連企画も展開し、広がりのある鑑賞体験を提供した。加えて、芸術監督が招聘した第一線のスタッフ・キャストと、DEL メンバーや近隣大学で発掘した若手人材とが協働し、世代や経験を越えた共創の場を生み出し、その創造の過程自体が作品の質の向上につながる企画となった。定員充足率は 69%となり目標値には届かなかったものの、**推奨度を示す NPS（ネット・プロモータ・スコア）は 69pt（目標値 40pt）と高値を示しており、**地域文化資源、劇場の人的資源、親子向け鑑賞ニーズを多面的に結び付けた点において、創造性・企画性の高い公演事業であったと認められる。 「せんがわディレクターズセレクション『ピギーバック』」（以下「ピギーバック」と表記）は、せんがわ劇場が長年育成してきたレジデントアーティスト DEL を核に、劇場内で培われた人材と第一線で活躍する外部の芸術家とを交差させることで、せんがわ劇場ならではの創造性・企画性を発揮した事業である。DEL メンバーであり近年評価を高めている劇作家細川洋平による新作書き下ろし脚本に、話題性の高い演出家生田みゆき氏を迎え、さらに俳優大森博史氏、舞台美術家杉山至氏、オーディションで選抜した若手俳優陣が加わることで、多層的な創作体制を実現した。芸術監督と DEL から選出したディレクターチームが創造面を支えることで、劇場が単に作品を上演する場にとどまらず、若手創作者、経験豊かな実演家・スタッフ、地域の劇場資源が出会い、新たな表現を生み出す場として機能した点に大きな特徴がある。 **定員充足率は 94%と高値を示したが、推奨度を示す NPS（ネット・プロモータ・スコア）は 24pt（目標値 40pt）に留まり、賛否の分かれる内容でもあった。ただし、来場者アンケートによる満足度の値の高さも合わせて分析すると、「共有できないような個人的愉しみ」のあった作品だったことがみてとれる。** 劇場が育成してきた人材を起点としながら、高い専門性と話題性を備えた創作環境を編成したものであり、せんがわ劇場独自の企画性と創造性を示す公演となった。

人材養成事業	
自己評価	「せんがわ劇場演劇コンクール」（以下「演劇コンクール」と表記） 全国の若手舞台芸術活動者から「登竜門」として注目を集めている様子が SNS の動向などからもうかがえる。新たな才能が出会う機会となるとともに、文化芸術の発信地としての劇場の役割を示す事業となっており、地域における文化芸術の振興やアイデンティティの醸成にもつながっている。また、審査にとどまらず、出場団体同士や劇場職員、スタッフ、運営に携わる DEL との出会いや交流が生まれる場でもあり、その背景には、DEL のメンバーが出場団体ごとの担当として運営補助を担い、参加団体を支える体制を整え、きめ細かなフォローを行っていることがある。アフターディスカッションは、専門審査員、公募審査員、出場団体が議論を重ね相互理解を深める場となるなど、出会いと交流の充実が創造性の向上にもつながっている。こうした取組は、参加推奨度（NPS®）77pt と目標値を大きく上回る結果にも表れており、本事業が参加団体にとって高い満足度と推奨意欲を生む場となっていることがうかがえる。さらに、本事業は終了後もせんがわ劇場の事業に関わる契機となっており、コンクール参加者が、演劇の専門的技能を地域に還元する仕組みである DEL への参加につながる例もみられる。 「DEL」 演劇コンクール出場団体のメンバーが任意で参加する、せんがわ劇場のレジデントアーティスト制度であり、劇場のミッション及びビジョンの達成を担う人材を育成する取組である。DEL のメンバーは、せんがわ劇場が実施する事業全般において、企画制作、出演、講師等の役割を担っている。また、経験知の高いメンバーによるきめ細かな指導と、実践の場に結びついたインキュベートプログラムの実施により、経験の浅いメンバーも段階的に経験を積みながら成長できる仕組みとなっており、育成プログラムの参加満足度は 100%であり、目標値を大きく上回った。このように、本事業は若手舞台芸術家の育成と地域への文

	化芸術の還元を両立する取組として、劇場が文化発信及び人材養成の拠点として役割を発揮することにつながっている。

普及啓発事業

自己評価	普及啓発事業全体として、参加者の文化芸術活動への参加意欲は 93%となり、目標値を上回った。各事業を通じて、鑑賞や参加の満足にとどまらず、その後の文化芸術への関心や行動意欲の喚起にもつながったものと考えられる。 「インクルーシブシアター」では、多様な参加者が集まり、事前オリエンテーション 1 日と稽古から本番（発表）までの 7 日間のなかで、参加者同士がお互いの特性を理解し、共有しながらひとつの舞台作品を作り上げた。ファシリテーターには、さまざまな特性を持つ参加者と伴走し、入念な健康管理などを行いながら創造性を高める必要があり、関連したスキルに秀でた DEL メンバーを人選した。多文化演劇教育分野で活躍する人材が企画の骨組をつくり、市民向けワークショップや身体表現を主に活躍する人材がファシリテーターとして力を存分に発揮した。また、国際規模で活躍する市内在住の車いすダンサー、かんばらけんた氏をファシリテーターの一人として招聘した。常に参加者に寄り添いながら事業を牽引し、劇場職員もその姿勢を学ぶ機会となった。観客側ではなく、制作・出演側に多様な市民が参加した事業は、劇場では初の試みであり、今後の事業展開の可能性の拡大に寄与するものでもあり、創造面において得られる成果は大きかったものと考える。 演劇アウトリーチ（コミュニケーション型・鑑賞型）では、調布市内の教育・福祉施設において、DEL メンバーが自身の活動及び人材養成プログラムを通じて培った創造性に加え、演劇教育、ワークショップ、ファシリテーションの知見を活かし、対象や実施先に応じた柔軟なプログラム設計のもと、コミュニケーション・表現育成のワークショップや参加型鑑賞プログラムを、不登校児童生徒支援（学びの多様化教室）、適応指導教室、児童養護施設、中学校特別支援学級、母子生活支援施設、都立特別支援学校などの調布市内のスペシャルニーズを主として実施した。実施件数は 18 件となり、目標値を上回った。教員や施設職員からは「新たなコミュニケーションの視点を得た」「子どもの隠れた個性を発見できた」との声が寄せられ、児童生徒からも「コミュニケーションの楽しさを知った」「もっと文化芸術を知りたい」との感想があり、表現活動を通じた気づきや関心の喚起につながる取組となった。 「夏休みシアター　おらほせんがわ夏まつり in せんがわ劇場」では、DEL メンバーが創作した作品をホール仕様へ発展させ、芸術監督の監修のもとで参加型作品として再構成するなど、既存資源を活かしながら新たな鑑賞体験を創出する企画展開を行った。これは、既存のレパートリーを単に再演するのではなく、劇場空間や鑑賞環境に応じて内容を更新し、参加型の要素を加えることで新たな価値を付加した点において、創造性・企画性の高い取組であった。 「演劇を通じた学習講座」では、「学び・出会い・共有」を軸とし、市民自らの文化創造の契機となる事業を実施した。前期は、桐朋学園芸術短期大学との協働のもと、演劇史を学ぶ講座を座学形式で実施したのち、せんがわ劇場を会場に学生の自主制作上演を観覧する構成とし、学びと実演を接続する企画とした。なお、同大学とは令和 7 年 3 月に相互協力提携に関する協定を締結している。後期は、白百合女子大学文学部教授による、生誕 100 周年を迎えた三島由紀夫の作品と時代背景を読み解く講義に加え、DEL メンバーによる著作の一部のリーディングを実施することで、文学研究と舞台表現を往還する学びの場を創出した。なお、白百合女子大学とは令和 8 年 3 月に相互協力提携に関する協定を締結している。これらは、大学との連携を基盤としながら、講義と上演鑑賞、講義とリーディングを組み合わせることで、単なる座学にとどまらない体験的かつ発展性のある学習機会を実現した点において、創造性・企画性の高い取組であった。

共生社会事業

自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・（国際プレゼンスの向上）海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・（国際交流）アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・（新たな創客への取組）在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。
	・自由設定の観点（任意）（※２）

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※2）	
	・自由設定の観点（任意）（※3）	

（※2）・（※3）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※4）	目標（値）（※5）	実績（値）
設問：令和 7 年度事業の実施の際に連携した団体の数 （市内学校、児童厚生施設、児童福祉施設、高齢者福祉施設、社会教育施設、高等教育機関、地域団体、市内民間企業 等） 情報源：各事業の実施報告、チラシ等へのクレジット 収集方法：令和 7 年度実施事業が全て終了した時点で集計 ※広報協力のみの団体は加算しない ※アウトリーチ事業（普-02、普-03）の実施先を含める	目標値：13 団体以上 基準：令和 5 年度連携団体　12 団体	18 団体。基準値、実績値ともアウトリーチ事業（普-02、普-03）の実施実績を計上している。 なお、アウトリーチに限らない劇場の助成事業全般では 22 団体と連携した。

（※4）・（※5）…R 7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	せんがわ劇場では、令和 6 年度からスタートした芸術監督制のもと、文化芸術の本質的価値を高める創造力と、劇場が運営する「DEL」に集う次世代の舞台芸術活動者たちの演劇教育スキルや企画制作力を生かしながら、地域資源の活用、地域との連携・協力、次代を担う子どもたちを含む多様な市民への機会提供を重視した事業展開を図った。令和 7 年度事業の実施に際して連携した団体数は 18 団体となり、劇場が地域の多様な機関と結び付きながら事業を展開したことが確認できる。 【公演事業】 芸術監督による創造面の統括のもと、DEL メンバーや仙川地域にゆかりのある人材を活用し、村制 70 周年及び調布市との姉妹都市盟約 40 周年を迎えた木島平村を題材とする「木島平のカロ」や、若手創作者の協働による「ピギーバック」を実施した。「木島平のカロ」では、DEL メンバーが脚本を執筆し、仙川地域にある桐朋学園芸術短期大学出身の人材や同短期大学にゆかりのある出演者を起用するとともに、芸術監督自らが演出を担うことで、地域に根ざした人的資源を生かした創造性の高い公演を実現した。また、「ピギーバック」では、DEL メンバーであり近年評価を高めている劇作家細川洋平による新作書き下ろし脚本に、第一線で活躍する演出家生田みゆきを迎え、芸術監督及び DEL から選出したディレクターチームのもとで創作を行うことで、せんがわ劇場ならではの企画性を備えた舞台芸術を創造・発信した。木島平村の物産展やロビー展示等による地域資源の発信に加え、若手創作者と外部で活躍する芸術家との協働による話題性の高い作品を上演することで、仙川を文化芸術の目的地として印象づけ、地域内外の観客や演劇愛好者の注目を集めた。 【人材養成事業】 「せんがわ劇場演劇コンクール」では、参加団体が上演を通じて競い合うだけでなく、専門審査員による講評やアフターディスカッション、公募審査員との交流を通じて学びを深め、その後の DEL への参加へとつなげることで、将来的に劇場の事業を担う人材の発掘と育成に取り組んだ。また、市民が鑑賞や評価の過程に関わる仕組みを取り入れるとともに、子どもや若い世代が舞台芸術に触れ、学ぶ契機を設けることで、地域における舞台芸術理解の裾野を広げた。 【普及啓発事業】 DEL メンバーによる創作力や実演力を生かし、仙川商店街と連動した夏休みミニシアター、共生社会の実現に向けたインクルーシブシアター、仙川地域にある桐朋学園芸術短期大学及び白百合女子大学との相互協力提携に関する協定に基づく「演劇を通じた学習事業」を実施したほか、調布市内のスペシャルニーズに対応する中学校の学びの多様化教室、適応指導教室、児童養護施設、都立特別支援学校、母子家庭支援施設等と連携し、せんがわ劇場が培ってきた演劇教育の手法を活用した通年のアウトリーチ事業を展開した。商店街、大学、福祉施設、学校等の地域機関との連携のもと、参加型の舞台芸術体験や学習講座、ワークショップ付き鑑賞機会を提供することで、第三中学校演劇部員、学生、文化芸術や劇場へのアクセスが困難な児童・生徒、多様な背景を持つ市民を含む幅広い層に参加・鑑賞・学習の機会を提供した。 以上のように、多くの団体との連携のもと、地域資源を生かした創造と発信、地域の関係機関との協力、多様な市民と次代を担う子どもたちへの機会提供を通じて、地域文化拠点機能を発揮した。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
設問：令和 7 年度に実施するアウトリーチ事業の実施件数 情報源：各事業の実施報告 収集方法：令和 7 年度実施事業が全て終了した時点で集計	目標値：14 件以上 基準：令和 5 年度実施件数　14 件	18 件

（※3）・（※4）…R 7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	【多様性とアクセシビリティの向上に関する取組と成果】 令和 7 年度、せんがわ劇場では、年齢、性別、障害の有無、国籍、居住地、文化芸術に触れる機会の多寡等にかかわらず、多様な市民が舞台芸術に触れ、参加し、学ぶことができる環境づくりを進めた。公演事業、人材養成事業、普及啓発事業を通じて、鑑賞型、参加型、学習型の事業を組み合わせ、多様な観客・参加者に訴求するプログラムを展開するとともに、参画するアーティストやスタッフについても、劇場が育成してきた DEL メンバー、地域にゆかりのある人材、第一線で活動する芸術家、大学関係者、学生、市民など、多様な属性の人々が関わる体制を構築した。また、障害の有無や年齢、経済的状況、居住地等にかかわらず実演芸術とつながることができるよう、鑑賞サポート、参加条件への配慮、アウトリーチ等を通じてアクセシビリティの向上に取り組んだ。アウトリーチ事業の実施件数は 18 件となり、目標値 14 件を上回り、多様な背景を持つ市民と実演芸術をつなぐ取組を着実に拡充することができた。 【プログラム、参画者の多様性について】 公演事業では、芸術監督自らが演出を担った「親と子のクリスマスシアター『木島平のカロ』」において、DEL メンバーが脚本・制作に関わり、仙川地域にある桐朋学園芸術短期大学にゆかりのある俳優を起用するなど、劇場が育成してきた人材、地域に根ざした人材、専門的な創作人材が交差する創作の場を形成した。加えて、木島平村の物産展やロビーでのパネル展示を関連企画として実施し、親子で楽しめる舞台芸術鑑賞と地域資源の紹介を組み合わせた、多面的なプログラムを展開した。 また、ピギーバックでは、DEL メンバーであり近年評価を高めている劇作家細川洋平による新作書き下ろし脚本に、第一線で活躍する演出家生田みゆきを迎え、芸術監督及び DEL から選出したディレクターチ

	ームのもとで創作を行った。出演には、DEL メンバーのほか、オンシアター劇場の黄金期を支え、舞台、映画、テレビで幅広く活躍する大森博史氏、さらにキャストオーディションにより選抜した若手俳優陣が参加し、世代やキャリアの異なる俳優が交わる場となった。制作面では、第 21 回及び第 30 回読売演劇大賞優秀スタッフ賞（第 21 回は最優秀賞）並びに第 60 回紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞した杉山至氏が参画し、多様な経験と専門性を持つ人材による事業展開を行った。 普及啓発事業では、「おらほせんがわ夏まつり in せんがわ劇場」において、DEL メンバーが創作した作品をホール仕様に発展させ、インプロの要素を取り入れた参加性のある上演を行ったほか、第三中学校演劇部との交流やバックステージツアーも実施し、鑑賞、交流、学びを組み合わせたプログラムとした。また、「インクルーシブシアター『わたし／あなた／せんがわ劇場』」では、多文化演劇教育分野で活動する DEL メンバー、車いすダンサーのかんばらけんた氏らがファシリテーターとして参画し、演劇、身体表現、ダンスを横断する創作活動を行った。 さらに、生涯学習事業では、桐朋学園芸術短期大学及び白百合女子大学という仙川地域の学術機関との協定に基づき、講義と実演、講義とリーディングを組み合わせた事業を展開した。人材養成事業である第 15 回せんがわ劇場演劇コンクールでは、全国各地から若手舞台芸術活動者が参加し、専門審査員、公募審査員、既存の DEL メンバーとの交流を通じて、多世代・多地域に開かれた人材養成の場を形成した。このように、公演、参加型事業、学習事業、人材養成事業を通じて、幅広い観客や参加者に訴求する多様なプログラムを実施するとともに、参画者についても、子ども、若者、学生、市民、障害のある人、地域住民、地域外の若手芸術家、大学関係者など、多様な属性の人々が関わる事業展開を図った。 【アクセシビリティ向上への取組】 アクセシビリティの面では、障害の有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等にかかわらず実演芸術に触れることができるよう、複数の角度から取組を行った。公演事業では、保育サービス、音声ガイド、字幕掲出、最寄駅から劇場までの誘導等の鑑賞サポートを実施し、観劇に際して不安を抱える来場者にも配慮した。特にピギーバックでは、字幕掲出、音声ガイド及び最寄駅からの誘導サポートを含む鑑賞サポートの利用件数が 8 件となり、これまでで最も多い実績となった。長年にわたり継続し、内容の見直しと改善を重ねてきた取組が、多様な来場者の具体的なニーズに着実に応えるものとして機能したことを示している。また、「木島平のカロ」は親子で楽しめる内容とすることで、子どもを含む幅広い世代に舞台芸術への入口を開いた。 普及啓発事業では、「インクルーシブシアター」において、性別や年齢、障害の有無にかかわらず参加できる創作の場を設け、障害者施設等への働きかけや関係団体を通じた募集も行うことで、従来劇場との接点が少なかった層への参加機会を広げた。「おらほせんがわ夏まつり in せんがわ劇場」では、地域の夏まつりと連動することで、ファミリー層や新規来場者が劇場に足を運びやすい環境を整えた。 さらに、アウトリーチでは、調布市内の学びの多様化教室、適応指導教室、児童養護施設、都立特別支援学校、母子家庭支援施設等において、DEL メンバーを中心とした通年の演劇プログラムを実施し、文化芸術や劇場へのアクセスが困難な児童・生徒等に対して、ワークショップ付きの鑑賞機会を含む実演芸術体験を届けた。これらの取組により、劇場に来場可能な層にとどまらず、多様な背景を持つ市民と実演芸術をつなぐ環境整備を進めた。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２）
	当劇場のビジョンのひとつである「持続的に発展する劇場」に向けて、劇場で養成した人材が当劇場が所在する地域をはじめ、当該の人材が活動地域でスキルや知識を活かして活躍する。

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
設問：せんがわ劇場で習得した知識・スキルが活かされた事業の実施件数 情報源：デル（人-02）参加者 収集方法：令和７年度末に実施するデル（人-02）参加メンバーへのアンケート	目標値：15 件以上 基準：令和６年度参考実績値 15 件	22 件

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	当劇場のビジョンのひとつである「持続的に発展する劇場」については、せんがわ劇場で養成した人材である DEL が、劇場事業の多様な場面で継続的に活躍し、その経験を通じてさらに成長していく仕組みを具体化できていることが大きな成果である。せんがわ劇場で習得した知識・スキルが活かされた事業の実施件数は 22 件となり、劇場が育成した人材が、劇場内にとどまらず各事業の現場において継続的に力を発揮していることが示された。 せんがわ劇場は、「豊かな想像力と創造性を備えた次世代を育てること」をミッションに掲げ、地域に根差す劇場として、将来の舞台芸術を担う人材の育成を進めてきた。令和６年度以降は小笠原響氏を芸術監督に迎え、DEL についても要綱を整備し、公演、人材養成、普及啓発、鑑賞サポート等に関わる劇場直営のレジデントアーティストとして位置づけ、その役割を明確にした。 DEL は、公演における脚本、出演、制作、運営補助、ワークショップやアウトリーチの講師、インクルーシブシアターのファシリテーター、鑑賞サポートの実施など多様な実務を担い、実践を通じてスキルや知識を高めている。また、演劇コンクールでは、出場団体が専門審査員や公募審査員、他団体との交流を通じて学びを深めたのち、任意による認定プログラムの受講を経て DEL に参加し、さらに劇場事業の担い手へと成長していく道筋が形成されている。DEL 加入後も、継続的な育成プログラムやメンバー同士の相互交流を通じて、普及啓発活動に必要なファシリテーション能力や、演劇に関する社会的課題への理解を深めながら、劇場事業への実践的な参画を通じて力を発揮している。 加えて、その力は劇場内にとどまらず、市内のスペシャルニーズに対応した教育・福祉現場でのアウトリーチや、地域機関との連携事業にも生かされており、施設ごとの課題やニーズに応じたプログラムを企画・実施することで、劇場で培った成果が地域社会へと還元されている。劇場が人材を育て、その人材が劇場と地域を支え、さらに次の人材育成や事業の充実へとつながっていくことは、「持続的に発展する劇場」の実現に向けた重要な成果である。

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。

せんがわ劇場の特徴としては、小規模の劇場でありながら地域の文化拠点となる劇場を目指し、創造性の高い公演事業の実施が可能となる芸術監督制のもと、劇場が育成した人材である DEL を核とし、公演、人材養成、普及啓発、鑑賞サポートを通じて、創造、人材育成、地域への還元につなげている点を挙げる。せんがわ劇場演劇コンクールでは、全国から多くの応募を集め、作品の優劣を競うだけでなく、専門審査員、公募による市民審査員、出場団体によるアフターディスカッションを通じて、多面的な学びと交流の機会を設けている。出場団体の一部がその後 DEL に参加し、劇場事業の担い手へと成長していく流れが形成されていることに加え、DEL メンバー自身がコンクール準備や当日運営、参加団体のサポートに関わっている点は、人材養成の場が次の人材養成を支える構造となっており、公共劇場における実践事例のひとつとして位置づけられるものと自己評価する。

また、公演事業では、「木島平のカロ」において DEL メンバーによる脚本と芸術監督自らの演出に加え、木島平村との連携による物産展やパネル展示を実施し、舞台芸術と地域資源の発信を結び付けた。「ピギーバック」では、DEL メンバーによる書き下ろし脚本に、第一線で活躍する演出家、俳優、舞台美術家を迎え、さらにオーディションで選抜した若手俳優陣を加えることで、劇場が育成した人材と外部の優れた芸術家とが交差する創作環境を実現した。劇場独自の人的資源を基盤に、外部の専門人材を的確に組み合わせる手法は、公共劇場における創造性・企画性の高い事業展開の好例といえる。

普及啓発事業では、「インクルーシブシアター」を令和 7 年度の助成事業において特筆できる事業であったと認める。車いすダンサーのかんばらけんた氏と、DEL の中でもこの分野に秀でた人材がファシリテーターを担い、参加者が互いを認め合いながら創作に取り組み、誰一人脱落することなく最終発表までやり遂げたことは、手厚い支援体制と丁寧な伴走の成果である。参加者から寄せられた「ここではできないことを素直にできないと言っても受け入れてもらえる。お互い認め合いながら一つのものを作り上げることの喜びを感じた」との声は、安心して参加できる創造の場づくりの意義を端的に示している。

さらに、仙川地域の学術機関である桐朋学園芸術短期大学及び白百合女子大学との連携講座では、講義と上演鑑賞、講義とリーディングを組み合わせることで、大学の知的資源と劇場の創造・実演機能とを接続する学びの場を形成した。加えて、字幕掲出、音声ガイド、最寄駅からの誘導等を含む鑑賞サポートについても、長年にわたり継続し改善を重ねてきた結果、利用の広がりが見られた。こうした取組は、地域連携とアクセシビリティの向上を両立させる具体例として、公共劇場における実践事例のひとつとして位置づけられるものと評価する。

（２）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※１）・（※２）…R７年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※１）	寄附金・協賛金等が獲得できていないという課題がある。	市内全戸配布の財団報を中心に紙媒体は充実しており、WEB 上での広報展開の充実を計画している。
目標(値)（※２）	賛助会員制度を導入し、事業の支援者を広く募る。	劇場公式 X（旧ツイッター）のフォロワーを 3,000 人に増やす。 現状値　2,840 人
実績(値)	制度導入に向けた検討を行った。 寄附金については、事業での募金箱設置と返礼のグッズを作成し収入を得た。 また、事業における地域連携により、協賛金を得た。	報告時点のフォロワー数は 3013 人であり、目標値を達成した。
団体の自己評価	賛助会員制度の導入が未達であり、次年度以降に課題を残している。	SNS などによる広報の実施により、適切といえる。

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※１）	他館との連携は現状では出来ていない。	定期的な会議を設けているほか、出向者による人事交流を継続している。
目標(値)（※２）	類似する事業を実施している会館との意見交換・勉強会を年度内に１回以上実施する。	継続を目標とする。
実績(値)	近隣の同規模の劇場と相互の現状の課題や展開などの意見交換を行った。	継続している。市の所管課とは、管理職が出席する定例会議と、共生社会担当が出席する定例会議を毎月１回実施した。
団体の自己評価	適切である。	適切である。 なお、定例会議のほか、出向者を活用し、市と密接に意見交換を行っている。

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ) ～ (セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	芸術監督、演劇ディレクターチームを設置し、加えて演劇外部アドバイザーを招聘している。	公文協の研修受講など必要な育成を行った上で、適性のある者を配置している。
目標(値)（※2）	継続を目標とする	継続を目標とする
実績(値)	継続して同様の体制のもと劇場運営を行うことで、劇場ミッション達成のための芸術・創造性の高い事業展開を図った。	公文協等外部・内部研修によるアートマネジメント研修を計 4 回実施し、延べ 12 人が参加した。
団体の自己評価	適切である。今後も芸術・創造面での統括人材として芸術監督を配置することの有用性を意識した事業を展開する。	研修等にも積極的に参加しており、適切と考える。社会的要請と組織課題にもとづく人材育成を行いながら適性のある者を配置できている。

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	職員採用時に舞台芸術の専門性を重視すると共に、必要な研修を行い、育成に努めている。	芸術監督、演劇ディレクターチーム、館長（職員）が役割分担のもと、三位一体で劇場運営を進めている。
目標(値)（※2）	継続を目標とする	継続を目標とする
実績(値)	継続して同様の体制のもと劇場運営を行った。	継続して同様の体制のもと劇場運営を行い、劇場ミッションの達成に尽力することができた。
団体の自己評価	適切である。	適切である。

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	令和 6 年度は新卒職員 2 名を採用し、若年層の雇用並び育成に取り組んでいる。	女性管理職登用を積極的に行い、37.5%となっている。
目標(値)（※2）	継続を目標とする	継続を目標とする
実績(値)	令和 7 年度は若年層 3 名を中途採用し、年齢バランスを考慮した人材確保と配置を行った。	継続して女性管理職や係長職の登用を行っている。37.5%を維持している。
団体の自己評価	若年層の職員の獲得を積極的に行っており、適切である。	女性管理職比率も高く、適切である。

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	整備を行い、「えるぼし認定」に認定されている	関連規定を策定し、定期的に研修を行い、セキュリティ確保に努めている
目標(値)（※2）	継続を目標とする	継続を目標とする
実績(値)	「えるぼし認定」上の行動目標に掲げている有給休暇取得率 50%以上を達成できている。令和 7 年度は育児・介護休業法の改正に伴い財団内規程を改正したほか、育児休暇取得率 100%を達成した。	個人情報等の取扱いに関する安全管理指針を整備し、推進したほか、全職員を対象とした「コンプライアンス研修～個人情報保護・情報セキュリティ研修」を実施した。
団体の自己評価	ワークライフ･バランスの必要性を提唱し、成果が見られることから適切である。	適切である。

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	関連規程を策定し、定期的に研修を行い、ハラスメント防止に努めている	契約事務規定に基づき、適正な契約を行っている
目標(値)（※2）	継続を目標とする	継続を目標とする
実績(値)	すべての主催事業の参加者に向け、ハラスメント防止対策ガイドラインの周知と同意を図った。 また、ハラスメント防止対策研修を実施した。	適宜、適正な契約を実施した。
団体の自己評価	適切である。	適切である。

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
せんがわ劇場では、令和 6 年度からスタートした芸術監督制のもと、公演事業、人材養成事業、普及啓発事業を通じて、創造性・企画性、地域文化拠点機能、多様性とアクセシビリティ、並びに人材養成の持続的な循環という観点からミッション達成のための事業に取り組んだ。特に、劇場のレジデントアーティストである DEL が、公演における脚本、出演、制作、運営補助、普及啓発事業やアウトリーチにおける講師・ファシリテーター、鑑賞サポートの実施に至るまで幅広く活躍したことは、劇場で養成した人材が劇場機能を支えるとともに、地域社会へ成果を還元することができた。 公演事業では、「木島平のカロ」において、DEL メンバーによる脚本と芸術監督自らの演出に加え、木島平村との連携による物産展やパネル展示をあわせて実施することで、舞台芸術と地域資源の発信を結び付けた事業を展開した。また、DEL 公演「ピギーバック」においては、DEL メンバーによる書き下ろし脚本に、第一線で活躍する演出家、俳優、舞台美術家を迎え、さらにオーディションで選抜した若手俳優陣を加えることで、劇場が育成してきた人材と外部の優れた芸術家とが交差する、せんがわ劇場ならではの創造的な公演を実現した。こうした取組により、劇場のある仙川が文化芸術の目的地として印象づけられ、地域内外の観客や演劇愛好者の注目を集めた。 人材養成事業では、せんがわ劇場演劇コンクールを通じて、出場団体、専門審査員、公募審査員、DEL との交流による学びとネットワーク形成が促進され、その後の DEL 参加へとつながる人材養成の流れを継続して機能させることができた。作品の優劣を競うだけでなく、専門審査員や市民審査員との対話、出場団体同士のアフターディスカッションを重視している点は、せんがわ劇場の人材養成事業の大きな特徴であり、その後の新たなコラボレーションや劇場事業への参画へとつながる好循環を生み出している。 普及啓発事業では、インクルーシブシアター、学習講座、夏休みミニシアター、アウトリーチ事業等を通じて、多様な市民が舞台芸術に触れ、参加し、学ぶ機会を提供することができた。とりわけ、車いすダンサー・かんばらけんた氏と DEL の中でもこの分野に秀でた人材がファシリテーターを担ったインクルーシブシアターでは、参加者が互いを認め合いながら創作に取り組み、誰一人脱落することなく最終発表までやり遂げたことが、安心して参加できる創造の場づくりの成果を象徴している。また、桐朋学園芸術短期大学及び白百合女子大学との学習講座では、地域の学術機関が有する知的資源と、劇場が有する創造・実演の力とを結び付けることで、講義と上演鑑賞、講義とリーディングを往還する発展性のある学びの場を形成することができた。さらに、市内のスペシャルニーズに対応したアウトリーチや鑑賞サポートを継続し、劇場に来ることが難しい人々も含め、多様な市民と実演芸術をつなぐ環境整備を進めることができた。 一方で、公演事業においては、創造性・企画性の高い作品をより多くの市民に届けるための広報・発信の工夫や、集客面でのさらなる改善は今後の課題である。 運営体制・持続可能性の観点では、芸術監督、DEL、職員がそれぞれの役割分担のもとで事業を支える体制が定着しつつあり、コンプライアンスの順守、ハラスメント防止、適正な契約事務及び劇場運営に関する研修の継続を通じて、持続的な劇場運営を支える基盤整備を進めることができた。今後も、芸術監督制のもとで DEL の育成と活躍の循環を強化しながら、公演事業、人材養成事業、普及啓発事業の充実を図り、せんがわ劇場のミッション及びビジョンの実現に向けて取組を深めていきたい。

備考